麻布地域の人々が取材・編集する地域情報紙

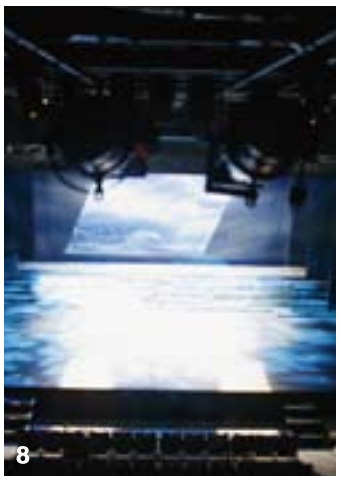
ザ AZABU

Community Information Paper
Vol.17 22 March 2011
発行／港区麻布地区総合支所
編集／ザ・AZABU編集室　〒106-8515 東京都港区六本木5-16-45
電話／03-5114-8812（代表）ファックス／03-3583-3782
暮らしの疑問は、「みなとコール」でお答えします。電話／03-5472-3710

Web限定版

1

7


8

俳優座劇場

六本木交差点ほど近くにたたずむ俳優座劇場。60年近くこの場所にあり、日本の舞台芸術発展に貢献してきた劇場の、2日後に公演を控えた仕込み風景を取材した。

1954年、都電と狸がはしるのんびりした街を「文化の街」にしようと商店街の人が動き、芝居をする人間自ら、使いやすい劇場を作りたいと作ったのが、この俳優座劇場だ。1980年に一度建て替えして現在の姿になった。

定員302人。舞台と観客の距離が近く、最後部の座席でも舞台が近く感じる。この舞台に立つことを憧れる舞台人は多いという。数ある劇場の中でも別格の存在だ。俳優座の本公演「リア王」の公演を2日後に控えた舞台づくりの現場は緊迫感が漂っていた。一歩踏む出すのもおっかなびっくりな暗闇の中、素早い身のこなしで動き回るスタッフたち。劇場を隅から隅まで知り尽くしていることが伺われる。

俳優座劇場には劇場運営の他に舞台美術部がある。約130人が在籍し、俳優座以外の舞台やテレビなどのセットも作っている。いい芝居のためにはいい道具が必要という理念のもと創設され、モノづくりの側面から日本の舞台のレベル向上を支えてきた。俳優座劇場は単なる箱ではなく、いい舞台を作り、豊かになろう、そんな意志が時代を超えて継承され、体現された存在なのだ。

六本木ヒルズやミッドタウン、ビルが立ち並び一大繁華街となった六本木。かつてのランドマーク、俳優座が少し小さく見える。時代が変わり街も変わる中、変わらない俳優座劇場の姿にほっとする人もいるのではないだろうか。今度の待ち合わせは小粋に俳優座劇場を目印にしてみてはいかがだろう。

2

3

4

5

6

1 美術さんや、立ち位置の確認をするスタッフ、さまざまな裏方さんたちが舞台に上がり、最後の仕上げに余念がない。
2 演出部の作った小道具。舞台で使う剣の精巧さにびっくり。
3 舞台袖の舞台監督の席。暗闇をかきわけるようにして手元だけを照らすスポットライト。
4 整理整頓された道具も万全の状態でスタンバイしている。
5 客席中ほどに演出家や指示を出す人の席が設けられている。
6 舞台袖の更衣室。

9

10

11

7 舞台裏の狭くて急な階段を上がり通路をぬけると照明室。鍵盤のように並ぶたくさんのスイッチを一人で操作する。
8 照明室から見た舞台。全体が見渡せる。
9 音響室。ここはドアのついた個室になっている。スタッフの視線の先は舞台を見下ろすガラス窓。
10 照明控室。壁のボードには照明プランや公演スケジュールが貼られている。つきあたり左が照明室。
11 照明で空のような青色に染まる舞台。
12 入って左側の階段に飾られているオブジェ。下のギリシャ語の意味は「汝は人間である。常にそのことを自覚して忘れるな」。
13 入って右側の階段に飾られた俳優座劇場にゆかりの深い人たちの写真。一番手前が劇団俳優座創設者の故千田是也氏。
14 オープン前の俳優座劇場正面玄関。準備に勤しむ中の熱気を包み込み、静かに佇む。

12

13

14

（取材／尾崎恭彦、石山恒子、満木葉子、高柳由紀子　文／満木葉子）

麻布びと

未来へ残したい麻布の声

仙台坂を大使館ロードに！　地域との結びつきに夢を追い続ける

蕪木（かぶらぎ）司郎（しろう）さん

南麻布1丁目、江戸時代から仙台坂の名称がある坂の途中。坂向かいには善福寺を囲むように専光寺、善光寺、善通寺、光善寺が点在する。蕪木さんが居を構えた地は、さかのぼること江戸時代には、伊達政宗下屋敷であった。

江戸時代は伊達政宗下屋敷
湧き水は二百年経った今も・・・

江戸時代には、網代町（今の網代公園近く）で米屋を営んでいたと、聞いています。戦前まで続いていて、父の兄が本家を継いでいたので、親父は中目黒で米屋を営んでいました。

そして、太平洋戦争でものの見事に焼け尽くされました。敗戦当初の頃、仙台坂の中腹辺りからでも、焼け野原が延々と広がり、麻布狸穴まで見渡せたほどです。焼け跡にまばらに建つ家の間から一之橋方面へ都電が走るのが見えました。一之橋の川沿いに、バラックがぽつんぽつんと建ち並んでいるだけでした。麻布山の大銀杏も樹上に焼夷弾が落ちたらしく、枝分かれの根元に大きな焼け跡が黒く残っていました。

一方今の場所には叔母一家が住んでいて、戦時中疎開してました。終戦迎えたら、麻布には戻らないと言い出して、私の家族が受継いだかっこうです。昭和20年には、早速国に補助金の申請をして、両親がすぐに家を建てました。

p19／1828年（文政11）の麻布地区

p17／1956年（昭和31）の麻布地区

港区産業・地域振興支援部発行「まち探訪ガイドブック」より転載

江戸時代、このあたりは松平陸奥、すなわち伊達政宗※１の下屋敷でした。戦後すぐ家を建てた時から、水はこんこんと涌いていて、井戸を使っていました。善福寺の柳の井戸は目と鼻の先ですから、笄川の同じ湧水ではないかと思っていますが、どうでしょうか？ 明治時代から昭和30年代まで、南麻布になる前の町名は麻布竹谷町でした。低い場所は湿地帯が拡がっていて、狸なども見かけたと聞いたことがあります。

東京大空襲で焼失した叔父の米店は、息子２人が戦死したこともあり、再開しませんでした。終戦後、配給制のために米屋が各域に合同して配給所となり、店主がその職員を構成したのです。親父も麻布から中目黒の配給所へ出向いていました。店はともかく、食料が必要でしたから、所有していた土地（現在の東麻布の法務局周辺）を畑にして、野菜作りをしましたよ。店をたたんだ叔父は麻布の遺族会の第一期の会長を務めました。私も何度か会の旅行を手伝いました。

今回お話しを伺った蕪木さんは話すより書く方が得意と、当時の思い出を綴ってくださったので紹介致します。

『記憶に残る風景のまずは、南部藩邸跡の有栖川宮記念公園の欅林と、次いで824年開基麻布山善福寺※2の逆さ銀杏※3と柳の井戸※4。1945年の焼け野原の向こうを走る都電がある。その記憶をたどってみよう。

昔といっても、思い出の風景はきわめておぼろである。戦後65年も経って尚、記憶に残る有栖川宮記念公園の風景は、塀は今より2倍程に高く外からは天空をまばらに覆う木立であったと記憶している。

今でこそ、公園内の太く立派な幹となった驚くばかりの欅林は、その樹下で遊ぶ子どもらに外国人も交じった光景は麻布にふさわしい風景である。

その有栖川宮記念公園に沿う木下坂を登って、100m先にある今の中国大使館には、かつての駐日満州国大使館があって、通りから2階の屋根裏が黒く煤けたままになっていたのが見えていた。

蕪木司郎さん、寿子さん

麻布運動場は当時盛岡区営グランドで、仲間と野球に興じた。簡単な野球ネットがあるだけでボールは簡単に道路に飛び出していった。

仙台坂に向かうと、下方右手に松方正義※5の屋敷入口があって、S字形の上り坂に何十本の大樹の欅林が広がっていた。山上の邸が木の間隠れに見えていた。坂の左手には２階建ての棟が続く屋根越しに善福寺の裏山を覆う樹木が続いて、その端に700年の銀杏の樹が夏には緑を、秋には黄色を輝かせて屹立していた。』

終戦後からある麻布運動場

麻布のこの地は水が豊かであった、という思い出は尽きません。

『麻布山の境内に入ると、今でこそ立派な中門と本堂で、その間の中庭にアメリカ初代の公使、ハリスの記念碑※6が立つが、以前の記念碑は参道右手の柳の井戸脇にあった。弘法太師が掘り当てたと言われる柳の井戸は何時の頃からか上を覆ったコンクリートの下から水が遠慮がちに流れているが、往時の井戸水は盛り上がるように湧き出ていたのである。

記憶にある二度ほどの渇水期にはバケツを持った近所の人が並んだものである。また少年野球を終えると水を飲み、手足を洗い、井戸際を談笑の溜まり場としていたものである。』

善福寺

柳の井戸

現在、お子さんも独立され、夫婦で暮らす蕪木さん。カフェの切り盛りで忙しい寿子夫人も交えて、お話しを伺いました。

33年前、お孫さんのベビーカーが不要になり、ふと思いついたのが、アメリカのガレージセール。リサイクルショップのはしりとしてオープン。これが大当たりでした。外国人が多く住むこの辺りで、当時からリサイクルショップを上手に利用したのが彼等でした。経営はもっぱら夫人の寿子さんが担当。

昨年完成した近代的ビルの１Fは、寿子夫人がカフェを経営

３年前に昔の井戸を移動して、近代的なビルに建て替えました。30年続けたお店を続行することも考えましたが、もっと地域住民と関わりたいと、カフェの経営に踏み切ったところです。カフェの地下では、今なお水が涌いています。

一方蕪木さんは、この地が歴史色の濃いところであり、大使館の多いことに気づきます。仙台坂に広がる大使館をはじめ、都内の大使館を足で歩き、マップを自主制作。2号目には東京都がそれを見て連絡と協力依頼があり、今はタイトル「新・大使館ロードマップ」として東京都の観光情報センター（展望台のあるビル1階）に置いてもらえるまでになっています。このマップは確認しながら修正を加え、10年間で13刷りに及んでいます。

「将来は仙台坂上から二之橋を越えて、オーストラリア大使館へ続く周辺の道を『大使館ロード』と命名して、地域住民と大使館の友好関係を深めたいですね。国際文化交流を通じて社会貢献できればと思っています」と蕪木さんの今後の夢は膨らみます。自ら案内の大使館街歩きと、カフェを開放してサロンにする日を設ける等、計画は着々と進んでいます。「周辺住民のみんなで『国際交流のある街』に知恵を出し合っていきたいです。共鳴者の現れるのを待っています」と力強く発言される蕪木さんが印象的でした。

仙台坂下から坂上をのぞむ

蕪木さんが自主制作している「大使館ロードマップ」10年間で13刷りに及ぶ

※1　伊達政宗（1567~1636）戦国時代の豊臣秀吉から江戸時代前期、徳川家康、秀忠、家光に仕えた武将。陸奥仙台藩の初代藩主。幼少時、天然痘にかかり右目を失明したことから「独眼竜」とよばれた。

※2　麻布山善福寺　浄土真宗本願寺派。824年（天長元年）に空海が開創。都内では浅草寺に次ぐ、２番目に古い寺である。鎌倉時代、親鸞に帰依して真言宗から浄土真宗に改宗。

※3　逆さ銀杏　樹齢約700年。寛喜元年（1229）寺に立ち寄った親鸞上人が寺を去る際、持っていた銀杏の杖を地上にさした。その杖が銀杏の木に成長したという言い伝えがある。俗に逆さ銀杏とよばれる。

※4　柳の井戸　正式には「楊柳水」。弘法大師が常陸の鹿島明神に願って得た阿伽井（あかい）であるという説から「鹿島清水」の別称がある。

※5　松方正義（1835~1924）政治家、元老。1882年に日本銀行を創設。1890年貴族院議員となり翌年、及び1896年２回にわたり、総理大臣に就任。伊藤博文内閣時代は６年にわたり、大蔵大臣を務めた。

※6　ハリスの記念碑 1859年（安政6）アメリカ最初の公使宿館を麻布山善福寺に設け、初代公使タウンゼント・ハリス（1804～1878）が就任した。5年9ヶ月務め、病気を理由に帰国の途に。帰国時の大統領はリンカーンであった。

（取材・文／高柳由紀子）

南部坂～有栖川宮記念公園

早春のひととき、好奇心にまかせてどんどん進めば、
自然に心も体も温かくなります。

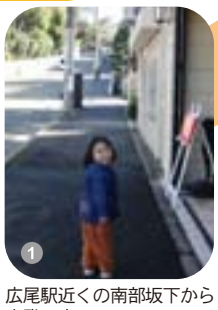
まだ三分咲き位かな。。(1月撮影)

坂の途中には麻布
南部坂教会。

ドイツ大使館のフォトギャラリー
に興味津々。

枯れ葉も遊び道具です

Start



広尾駅近くの南部坂下から
出発です。

途中、赤い椿を発見！

枯葉の道を下まで降りたら池の
脇を進みます。

坂の上にある南部坂の案内、赤坂の
南部坂と同じく「盛岡城主南部家」の
屋敷があったため名付けられたとの
こと。

梅の先に見える教会の
塔。

滝も現れ、こんな自然を感じる場所だっ
たのかとあらためて感心しました。

飛び石もぴょんっと越えて

ここから有栖川宮記念公園に
入ります。

ひとしきり遊んだ後サクサク
音を立てながら園内を散策。

ケン・ケン・パーって思わず声を出したく
なるような丸石の階段を上り

Goal

広場のステージ（？）で一曲披露、
ここでお散歩終了です。

まずはブランコやすべり台で
ウォーミングアップ

枯れ葉を敷き詰めたエリアな
らワンパクしても安心です。

少し急な石の階段を上ると

梅林に着きます。

**春、園内の桜が一斉に咲きます。
お花見が待ち遠しいですね。**

（取材／鈴木敏江、鈴木美砂　文／鈴木敏江）

劇団俳優座舞台部
舞台監督　葛西百合子 さん

世の中にはいろいろな仕事があります

舞台監督

子どもに生きていく力を
親子で読んでみよう KIDS! ハローワーク

最初は誰でも初心者。つらくても楽しい仕事です！

（上）　稽古場で葛西さんが制作したベンチに腰掛けて取材しました。
（右下）葛西さんが常に持ち歩いている道具を見せてもらいました。
（左下）ガチ袋を腰に巻いて重さを体感しました。

今回から、麻布地区の中学生が実際に担当することになりました。一番手は港区立高陵中学校1年生女子3人。今回は麻布台にある劇団俳優座の練習スタジオに「舞台監督」葛西百合子さんを訪ねました。以下、中学生による取材報告です。

◎ 葛西さんがこの仕事に就いたきっかけは？

高校時代に友だちと「宝塚」の舞台を見て目にやきつき、自分もこんな舞台をつくりあげる仕事に就きたいと思ったことだそうです。

◎ 舞台監督の仕事の範囲は？

役者さんが手にとって使う小道具、工場で製作する大型の美術、音響、照明、衣装のデザインなどいろいろ。演出家ときっちり話し合いながら決めていくそうです。

◎ ピンチエピソードは？

本番直前ギリギリまで道具が完成しなかったり、役者さんの急な体調不良やケガのために台本を書きかえたりしたこともあったそうです。

◎ この仕事を目指す人へのアドバイスは？

「芝居の仕事に入りたいと思っている人はどんどん入ってください。最初は誰でも初心者です。やる気があればついていける。大丈夫。練習などはキツイけど、つらくても楽しい仕事です！」と話していただきました。

◎ 今後の抱負は？

17年のキャリアがある葛西さんは、役者さんが安心して芝居ができる、この人だったら信頼できる、と皆から思われるような舞台監督になろうと常に心がけているそうです。　（櫻本さやか）

取材をして思ったことは、舞台監督というのは大変な仕事で、ガチ袋という道具がたくさん入っている物を腰に巻いて走りまわっている仕事だということです。打ち合わせだけでも全部終えるのに1か月もかかるそうです。

葛西さんのように1週間徹夜したりして小道具づくりなどをするのは本当に大変だと思いました。でも、皆の喜ぶ顔を見るためにがんばって作ったりしているところは、すばらしいと思いました。　（本橋能里子）

葛西さんが制作した牢屋のセットです。

私は今回、俳優座の稽古場を訪れて、楽しかったことよりも、学んだことの方がたくさんありました。特に勉強になったことは、自分の好きなことを仕事にすることの素晴らしさです。今回取材した舞台監督の葛西さんは自分の仕事の話をしている時、とても表情が生き生きとしていました。例えば自分の作ったベンチの話をしている時、私が何気なく座っていたベンチを指して「このベンチも私の手作りなんですよ」とおっしゃっていました。私はまさか自分の座っていたベンチが手作りで、しかも女性がつくったものだとは想像できませんでした。他にも、１つで牢屋にもなり靴箱にもなる、一石二鳥のものや、これまた手作りの机、机といってもきちんと引出しもありました。あとは、目玉。これはリアルで神経まできちっと作ってありました。ピンポン玉を買ってきて絵具の類で色づけして作ったそうです。「まさか目玉になるなんて、お店の人は思わなかったでしょうね」と笑いながら話してくれました。

私は将来自分の好きなことが仕事にできたらいいと思いました。

今回取材した時間は少なかったけれども、得たものは山ほどありました。こんな貴重な体験ができて本当に良かったです。　（大竹朱音）

今回の取材経験が、みんなの夢の実現に向けて力強いサポートになるといいですね。

（取材／櫻本さやか、本橋能里子、大竹朱音、
取材サポート／尾崎恭彦、大村公美子）

スロバキア共和国

面積：　49,035平方キロメートル（日本の約7分の1）
人口：　542万人（2009年9月スロバキア統計局）
首都：　ブラチスラバ
民族：　スロバキア人 85.5%、ハンガリー人 9.5%等（2007年末）
言語：　スロバキア語
宗教：　ローマ・カトリック 69%、プロテスタント（ルター派）7%等（2001年：国勢調査）
政体：　共和制
元首：　イヴァン・ガシュパロヴィチ 大統領
議会：　一院制（定員150名、任期4年）

外務省ウェブページ
http://www.mofa.go.jp/mofaj/area/slovak/data.htmlより

スロバキア共和国

特命全権大使：ドゥラホミール・シュトス
取材協力／スロバキア共和国大使館

大使を訪ねて⑯
麻布の"世界"から

Slovakia

❶

❷

❸

❹

❺

❶ 丘の上に見えるのは、スピシュスキー城。東部スロバキアのプレショフ県レヴォチャ郡スピシュスケー・ポドフラジエ市郊外にある。1993年に「スピシュスキー城とその関連文化財」として登録される。（スロバキア大使館提供）

❷ バルデヨフは、スロバキア東部のプレショフ県バルデヨフ郡の都市。古くから温泉地として知られていた。中世の文化財が中心街に数多く残り、ユネスコの世界遺産。（スロバキア大使館提供）

❸ スロバキアの歴史や文化について熱く語ってくださったマルティン・ポドゥスタヴェク参事官。

❹ スロバキアの代表的なガラス工芸品。繊細なカットは職人が手で施している。

❺ ポドゥスタヴェク参事官から、お土産に頂いた「トカイワイン」。

ヨーロッパの隠れたハート

中央ヨーロッパのスロバキアはチェコ、ポーランド、ウクライナ、ハンガリー、オーストリアと国境を接し、ヨーロッパのハート（心臓）と呼ばれている。チェコスロバキアとしての記憶が強い方も多いだろう。1993年にチェコと平和的に分離して現在のスロバキアとなった。地理的に中央ヨーロッパでありながら、日本では東ヨーロッパの国と思われている。だが長い歴史の中で見ると、実は西ヨーロッパに含まれていた時期が最も長いとのこと。9世紀にはソロバキア人の祖先によってモラヴィア王国が形成され、10世紀から20世紀にかけて、ハンガリー王国およびオーストリア・ハンガリー帝国の一部であった。文化・社会・政治など多くの影響は西から流れ込み、1200年にわたり西ヨーロッパの国とされてきた。

首都ブラチスラバは、隣国オーストリアの首都ウィーンへわずか45キロ。2009年からユーロが導入され、国を越えた買い物がとても便利になった。スロバキアには歴史的に貴重な建造物が数多く残されている。大型のホテルより小規模なホテルや民宿が多く、独特な雰囲気を味わえる観光スタイル。まだ良く知られていないお宝スポットも沢山あるという。100を超す城の多くは博物館となっているので、４つの世界遺産と併せて巡れば、いつものヨーロッパ旅行とは一味違う旅が楽しめることだろう。

昔は農業や鉱業を主の産業としていたが、今では機械工業、自動車工業や化学工業の方がはるかに盛んである。ヨーロッパの名のある自動車メーカーの工場がスロバキアで稼動している。その理由は他の国には真似のできない高い技術にある。自動車でも、特に精密な部分の製造を得意としてるところは日本と似ているのかもしれない。

スポーツはサッカーとアイスホッケーが盛ん。アイスホッケーは各都市にチームがあり、３部リーグまで戦うというからそのレベルの高さは想像がつく。バンクーバーオリンピックでは男子チームが４位になり、優秀な選手は北米のNHL（ナショナルホッケーリーグ）でも活躍している。

スロバキアについて熱く語ってくださったマルティン・ポドゥスタヴェク参事官から、お土産にトカイワインをいただいた。ハンガリー国境に近い、東南部のトカイ地区で生産されたワインのみが「トカイ（Tokaj）ワイン」と表記することを許されている。冬の始まりに一度凍ったぶどうを使った、香り豊かで濃厚な甘口の貴腐ワインで、歴代ヨーロッパ諸国の王たちを唸らせたというプレミアムもの。ロゼワインのような、ピンクともオレンジともつかない美しい色合いだ。食事に飲むワインではなく、特別な日に飲むワインで、通常より容量の少ないボトルでよくお土産にされている。その場で分けて飲んでみたかったが、さすがにこらえて取材班代表者が持ち帰り、編集会議で感想を聞く約束をした。

ドゥラホミール・シュトス特命全権大使は今年で日本駐在２年目だが、実は以前にも日本に滞在した経験をお持ちである。当時は大使館が広尾にあったこともあり、この辺りの土地にはお詳しい。休日にご子息と有栖川宮記念公園で過ごす時間が楽しみという大使は、日本料理もお好みで、特にうどん、そば、味噌汁がお気に入りと話してくださった。

最後に大使に地域交流について伺った。スロバキアは奈良県吉野郡野迫川村（のせがわ）との交流を持つ。野迫川村の保存食としての漬物に興味を持った当時の大使夫人が村を訪問したことがきっかけとなり、今では村の子どもたちがスロバキアを親善訪問するまでに発展している。また、スロバキア国立オペラのメンバーも毎年来日し、東京を含めて色々な場所で公演を行っている。この活動は今年13年目を迎えており、大使館も全面的に協力している。残念ながら公演は未だ港区では行われていないので、麻布区民センターで是非実施してほしいとお願いした。一流の歌唱力を、是非麻布で鑑賞したいものだ。

（取材・文／加藤智恵、高柳由紀子、倉石哲良）

Azabu-nista

麻布で働く外国人レポート

キャリア講座主宰者 Institute Director

Francois Dubois

目の前の課題に向き合うことで見えてくる次の道

デュボワ・メソッドの講座。座学にとどまらず体を動かす。

六本木ヒルズのアカデミーヒルズ開講以来７年近くも続いている<デュボワ・メソッド>。この講座の講師を務めるのはマリンバ奏者、元慶應義塾大学講師、そして武当式太極拳教室運営とさまざまな顔を持つフランソワ・デュボワさんです。フランソワさんはフランスのブルゴーニュ地方出身。パリのコンセルバトワール（フランス国立高等音楽院)で学ぶ中でマリンバという楽器と出会い、卒業生による演奏会の出演をきっかけに音楽家としての人生が大きく花開きました。ドイツでの演奏活動などを経た後に渡来。いったんフランスに帰国した後は知り合いがいたことがきっかけで来日しました。日本では知人を通じて知り合った慶應義塾大学の関係者から講演を依頼され、その後 SFC(湘南藤沢キャンパス）で教鞭を取ることに。授業の傍らで多くの学生から相談を持ちかけられ、１ 年の準備期間を経てキャリアマネジメントを１つの講座として確立しました。

フランソワさんのキャリアの大きな転換期というと、幼少期にご両親と離れて暮らした時期、音楽を極めるためにアフリカへ渡ったときの体験、日本そして中国での太極拳武術の修行の経験などが挙げられます。幼少期を過ごしたオーベルニュ地方では日本人の合気道の師、田村信善先生と出会い、フランスの一地方都市ではなくもっと広い世界を視野に入れて活躍する必要性を感じたとか。パリでの音楽の修業中にはアフリカ出身のダンサーとの出会ったことで自分の中に不足しているものに気がつき、アフリカに渡ることを決意。そのアフリカ滞在中には革命が起こったり人生観が変わるような体験も。日本では充実した日々を過ごす一方で自分の中から何かが枯渇していくのを察知して、その答えを求めて中国へ渡り太極拳武術の修行に励んだそうです。

気功教室のレッスン風景。和気あいあいとした雰囲気の中にも真剣に教えるフランソワさん。

音楽の道を究める中では挫折や失恋、他人からの賞賛やそれに伴う周囲の妬みなど、さまざまな局面に遭遇したそうです。それぞれの過程で自分が直面している課題と真摯に向き合ってきたフランソワさんだからこそ、学生の悩みにも深い理解を示し、適切なアドバイスを与えることができるのでしょう。

もうひとつ、フランソワさんのキャリア形成の過程で欠かせないのが人との出会いです。これも音楽の修業を通じて必要な人脈を構築してきたこと、同時に誰に何を相談すれば答えが得られるかという感性が磨かれていったことにあります。そんな経験をもとに、フランソワさんは、人生を豊かに歩むことや自分を変えることなど、よりよい人生をおくることをテーマに本も執筆なさっています。

フランソワさんのこれら一連のキャリアは、心の声に耳を澄ませ、感性を磨くことで聞こえてきたメロディーの集大成といえるでしょう。

（写真提供／フランソワ・デュボワ　取材・文／福本綾子）

音楽を楽しんで　土井 遥（はるか） さん

第64回全日本学生音楽コンクール全国大会に入賞

Oleh Krysa（オレグ・クリサ）先生との練習

数々の賞を受賞してきた遥さん

台場区民センターの区民ホールの重い二重扉を開くと、サン＝サーンスの「序奏とロンド・カプリチオーソ」が心に飛び込んできました。練習風景をそっと訪ねました。ジーパン姿の奏者がぽつんと一人、広いホールで練習をしていました。そしてずっと離れて、楽譜と演奏者に神経を集中させて、見守るもう一人。

練習中のバイオリン奏者は、南麻布に在住の中学生（4月からは高校生）の土井遥さんとお母さんです。この光景から遥さんの美しい音と表現は、練習と確かな技法、そして親子の信頼の上に育まれたことを確信しました。

バイオリンを始めるきっかけについてお母さんは～

「生まれてから3歳近くまでアメリカにおりましたが、まだ幼くても音楽会に連れて行かなければならない機会が多く、遥が飽きるどころか、楽しそうに体を動かしている様子から、音楽好きを確信しました。」

「今でもオペラを聴くと家に帰って、大きな声でアリアを歌うことは、変わりません。いつも自然に音楽をしているという感じです。」

お母さんからピアノを習い、バイオリンは4歳ごろから先生に来ていただいて始めたことなど伺いました。

練習やコンクールについて遥さんは～

「練習は楽しいです。特にコンクールに向かっての練習は、先生も私も本当に一生懸命になって、何かを突き止めるまで、把握できるまで、音楽を追求できるのが楽しいです。これからは、オーケストラとの共演をして、自分の想像できる音楽のイメージを更に広げていきたいです。」

夢は、大好きな音楽を通じて世界中の人たちと交流すること、そして人に役立つ仕事がしたいと希望を持っているそうです。

第64回全日本学生音楽コンクールを終えて～

“音楽を楽しむこと”を主軸にして、多くの先生からご指導をいただき技術を磨き、2010年第12回日本演奏家コンクール全国大会・弦楽器部門中学生の部１位、同第19回全日本ジュニアクラシック音楽コンクール全国大会・弦楽器部門中学生の部最高位の経歴の上に、今回の全日本学生音楽コンクール　バイオリン部門中学校の部・東京大会・最終大会と進んで、2位に入賞しました。（※１）

「幸い港区の区民センターを練習に利用させていただくことができて、本当にありがたかったです。」そして日本の多くの先生方や、諸外国の先生方のご指導を受け、育てられてきたことなどお母さんは感謝していました。

ホールでの練習を取材して、いろいろなイメージを求めて自由に試み、挑戦しながら楽曲の世界を創り出してゆく過程の一端を拝見しました。

真摯な練習風景は、新しい大きな未来と音楽の持つ力を感じました。

※１ 毎日新聞「学生音コン 自然体で挑み２位」
2010年11月30日朝刊付

（取材／森　明、浅川一枝　文／浅川一枝）

1 設立当時の南葵文庫の新館の外観。壮麗な洋館建築だった。
（出典：南葵文庫絵葉書　写真提供／東京大学総合図書館）

麻布の軌跡

南葵文庫（なんきぶんこ）

麻布台一丁目、飯倉片町から飯倉交差点へと向かう外苑東通り沿いの一帯には、明治から大正時代まで徳川侯爵の屋敷があった。当主の徳川頼倫（とくがわ よりみち）は、自邸の一角に図書館「南葵文庫」を設立、図書館を基盤とする多彩な活動を展開し、近代日本における文化活動に力を尽くした。南葵文庫とはどのような場所であったのか。また現在、その蔵書や建物はどうなっているのかを語りたい。

イギリス遊学中に見聞した文化活動に刺激を受け、紀州徳川家に伝わる蔵書をもとに開設

まずは頼倫の経歴と南葵文庫設立についてみてみよう。明治5年（1872）、東京・田安家に誕生した頼倫（幼名藤之助）は、8歳で紀州徳川家茂承（とくがわ もちつぐ）の養嗣子（ようしし）となり、麻布飯倉六丁目（当時の住居表示）の邸に入る。学習院、邸内の養生塾で学び、明治29年（1896）から2年間イギリスに遊学、ケンブリッジ大学で学んだ後、欧米諸国視察を経て帰国。このとき、欧米で図書館活動が盛んに行われていることに感銘を受け、わが国の近代化を推し進めるためには日本にも本格的な図書館が必要であると考える。そして、自らの力で図書館をつくり一般に公開しようという理想を掲げた。明治32年（1899）、邸内の一角、ちょうど現在の港区立麻布小学校がある場所に南葵文庫を創立。徳川家康の御譲本（おゆずりぼん）をもとにした紀州徳川家に伝わる２万冊の収蔵書が土台だ。明治41年（1908）には新館落成によって一般公開を実現した。南葵文庫は紀州の「南紀」と徳川家の家紋である「葵」をかけた命名である。

南葵文庫の建物は、旧館・書庫・事務所・新館に大別される。旧館は瀟洒な住宅形式の建物で、新館のほうは当時の著名な建築家、山口孝吉の設計により、間取り、採光、衛生設備など、閲覧者の便宜を十分に配慮したものとなった。300坪の庭も整備し、休憩できるスペースとした。西洋館としての重厚なつくり、高価な家具やシャンデリア、美しい庭園は、それだけでも訪れる人々を魅了したに違いない。麻布市兵衛町に偏奇館（へんきかん）を建てて住んでいた永井荷風、麻布飯倉片町在住の島崎藤村も通ったという。

一般の人々の教養を高めるのが頼倫の目標。講話会や児童会も開き、多彩な活動を行った

文庫の蔵書は和漢の歴史書や記録物、文学、倫理に関する書物が多く、寄贈図書、購入図書が加わり、新館落成時には5万冊を超える。しかしながらその内容は一般的なものではなく、利用者は学生、教職員、官吏、著述家が主であった。「多くの人に広く開かれた図書館」をめざしていた頼倫は、専門の学者による、だれにでもわかりやすい学術講演、展覧会、庭での遊戯や音楽の演奏を盛り込んだ児童会を定期的に開催した。また、利用者との意見交換も積極的に行い図書館運営に取り入れた。

十数年かけて南葵文庫の詳細を調べ、著書にまとめた元・港区立麻布小学校教諭の坪田茉莉子（つぼた まりこ）さんにお話を聞いた。坪田さんは、頼倫の功績について「この時代は、学制がしかれ明治23年教育勅語の発布があったとはいえ、就学率は低く、女性にいたっては学問は不要と考えられていました。その中で、一般の人たちすべてに良質の読書の機会を提供し、教養のレベルを底上げしようとした活動は、真の意味で近代的で、素晴らしいものだったといえるでしょう」と語る。

震災後、蔵書は東京帝国大学の図書館へ寄贈。建物の一部は、現在は熱海の老舗旅館の別館に

2 徳川頼倫の肖像。学問以外にも乗馬、剣道、柔道に熟達し、交際も真情にあふれていたという。
（出典：社団法人日本図書館協会発行「近代日本図書館の歩み 本篇」）

南葵文庫の公開期間は15年間ほどである。大正12年（1923）の関東大震災で、東京帝国大学（現在の東京大学）は大きな被害を受け、図書館と蔵書が焼失する。同大学は学問の中枢であると考えていた頼倫は、この非常事態を憂慮し南葵文庫の蔵書と建物の寄贈を決意する。大正13年（1924）南葵文庫は閉館し、東京大学構内に図書館が再建されるまで、建物も東京大学付属図書館として使われた。翌年大正14年（1925）頼倫は病没。菩提寺は和歌山県、長保寺である。

東京帝国大学に寄贈された蔵書は9万冊余り、質量ともに同大学図書館の根幹をなすものになったという。現在でもむろん、一定の手続きの後に一部を閲覧することも可能だ。また「南葵文庫蔵書目録」は、東京大学はもとより早稲田大学、ハーバード燕京研究所、シカゴ大学、ケンブリッジ大学の図書館、英国図書館にもみられ、各国の研究者の貴重な資料となり得ている。

建物については、結局は大学へはわたらず旧館部分が大磯、高麗山麓の徳川別邸に移築され、玄関とベランダを増築し「VILLA DEL SOL（太陽の館）」と名付けられた。昭和18年（1943）には旧野村財閥の創始者の手に渡る。さらに昭和50年代に入り、熱海伊豆山温泉の老舗旅館「蓬莱（ほうらい）」の五代目女将、古谷青游（ふるたに せいゆう）さんが譲り受け、旅館の別館として移築する。古谷さんに取材したところ、「初めて野村家へ遊びに行ったときは、徳川家の建物だったことを知りませんでした。古色蒼然とした中にも惹きつけてやまない佇まいがあり、取り壊すと聞いて、やもたてもたまらず復元を申し出たのです」。莫大な私財が投じられ、専門家によるプロジェクトチームを発足、移築・復元の作業は6年にも及んだ。家具は古谷さん自らイギリスでアンティークを探したという。昭和62年（1987）ホテルとしての「蓬莱洋館 VILLA DEL SOL」がオープンし、現在に至る。そして平成20年（2008）には、この建物は国の登録有形文化財の指定を受けた。

現在、麻布台一丁目には南葵文庫の碑などもなく、片鱗すらうかがい知ることはできない。しかし他の地において大切に保存され、脈々と時を刻み続けていることを、麻布に縁のある私たちはいつまでも心に留めておきたいものである。

なお次号では、頼倫の嗣子（ししし）、徳川頼貞（とくがわ よりさだ）が音楽による社会貢献をめざす基となった南葵楽堂（なんきがくどう）を取り上げてみたい。

取材協力／ 坪田茉莉子さん
蓬莱・蓬莱洋館 VILLA DEL SOL 古谷青游さん
参考文献／「南葵文庫 目学問・耳学問」坪田茉莉子（郁朋社）
「近代日本図書の歩み 本篇」（社団法人日本図書館協会）
「荷風全集第19巻」永井壮吉（中央公論社）

（取材／田中亜紀、大澤佳枝　文／田中亜紀　タイトル／高橋　光）

タイトルバック地図
区立港郷土資料館刊
「増補 港区近代沿革図集 麻布・六本木」
より作成

【 東大総合図書館 】

3

4

5

3 徳川慶喜（とくがわ よしのぶ）揮毫（きごう）になる「南葵文庫」の扁額（へんがく）は、当時は新館の普通閲覧室に掛けられていた。現在は、総合図書館1階洋雑誌閲覧室にある。（4.5ともに写真提供／東大総合図書館）

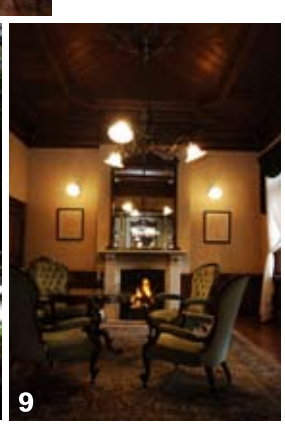
4.5 蔵書の例。左は「羣書治要（ぐんしょちよう）」。唐における治政に関する書物で、徳川家康の時代に伝わりのちに紀州徳川家に移された。右は「春江燈市録（しゅんこうとうしろく）」。漢学者、依田學海（よだ がっかい）の旧蔵書で、清末上海の花柳界の様子を記した書。學海の書き入れがみえる。

6

7

8

【 VILLA DEL SOL（ヴィラ デル ソル）】



9

10

6 大磯時代のVILLA DEL SOL。（以下9まで写真提供／蓬莱洋館 VILLA DEL SOL）

7 ホテル内のレストランは、南葵文庫当時は閲覧室であったという。重厚でクラシックな雰囲気の中で、南フランス魚介料理を楽しめる。

8 ホテル「蓬莱洋館 VILLA DEL SOL」として使われている、現在の建物の外観。伊豆山の緑と相模灘に囲まれたロケーションの中で瀟洒な佇まいが際立つ。

9 サロン。腰板や天井、暖炉は当時のもの。壁のクロスは同様のデザインをイギリスで注文してつくったという。

10 ロビーの廊下にかけられた額。移築・復元の際、古谷さんが東大総合図書館に願い出て複製を制作した。足をとめ興味をもつゲストも多いとのこと。

Living in AZABU

“ TOTE BAG 作りましたの。”

この冬とっても寒かったですね。
ご無事におすごしになりましたか？
あったかな春が待たれます。
“寒い”“寒い”等と言いながら
おウチにこもって（！）
TOTE BAGをいろいろ作りました。
古いジーンズや、デニムのエプロン etc.を
つぎはぎにして。
Blueのはかなくなったデニムのスカートに
とっておきのお洋服のラベルをたくさん縫いつけて、
大のお気に入りの作品になりました。
超ド派手なアメリカンメイドの Dead Stock のお星様のプリントが
気に入って買ったパンツも、バッグに仕上がってましたァ〜!!
小さなかわいいプリントの小布 etc.を集めて。ジッパーを
つけた小ぶりの bagも作るとお揃い感が出て
おっしゃれ〜ですよ。

おいしいお弁当をたくさん作って（！）
お友達のレナちゃん達とお花見に行こう。
麻布の桜を見てまわろう。
超憧れのあの方 にも
“春ですね。”なんておたよりも書こう

あ〜春になったらね（!!）
楽しい季節をおすごし下さいね。

（イラストレーション・文／湊　早苗）

港区基本計画・麻布地区版計画に関する区民意識調査の結果がまとまりました。

港区基本計画・地区版計画の見直しに向け、各総合支所では、地区の課題や地域事業等についての区民の意見を広く聴くため、地区内住民を対象にした区民意識調査を実施しました。調査の結果がまとまりましたので、麻布地区に関する部分（概要）をご紹介します。調査にご協力いただいた皆様ありがとうございました。

調査対象	麻布地区内に住民登録する満 20 歳以上の人
標本数	700 標本
標本抽出	住民基本台帳からの無作為抽出
調査方法	郵送
調査期間	平成 22 年 12 月 3 日〜12 月 20 日
有効発送数	688 件
有効回収数	244 件
有効回収率	35.5%

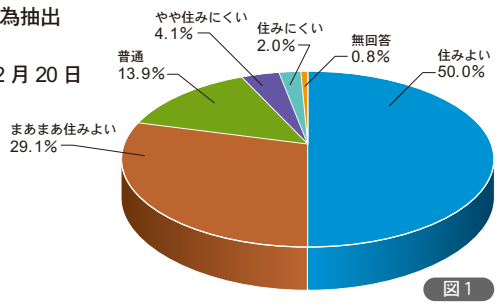


図１

調査結果の概要

1 住みよさについて

麻布地区の住みよさについて尋ねたところ、「住みよい」と感じる人は、50.0%、「まあまあ住みよい」と感じる人は、29.1%となっており、あわせて約８割が住みよさに関し、肯定的な回答をしています（図１）。

2 参加している地域活動について

地域・コミュニティ活動のうち、参加している活動について複数回答で選んでいただきました。

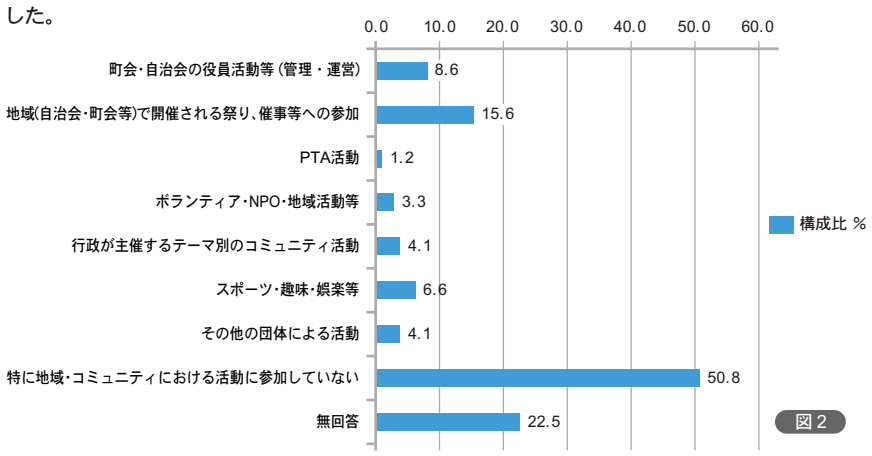


図２

参加したことがある活動で最も多いのは、「地域（自治会・町会等）で開催される祭り、催事等への参加」（15.6%）で、ついで、「町会・自治会の役員活動等（管理・運営）」（8.6%）、「スポーツ・趣味・娯楽等」（6.6%）の順となっています。一方、「特に地域・コミュニティにおける活動に参加していない」も約半数（50.8%）となっています（図２）。

3 地域の課題について

お住まいの地域にとって課題と考えること、困っていること、または必要性が高いと考える取り組みについて複数回答で選んでいただきました。

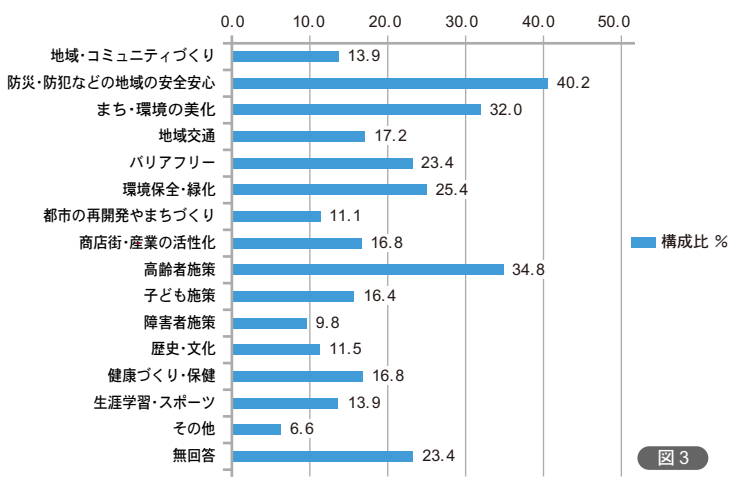


図３

地域の課題への関心は「防災・防犯などの地域の安全安心」が最も高く（40.2%）、次いで「高齢者施策」（34.8%）、「まち・環境の美化」（32.0%）、「環境保全・緑化」（25.4%）の順で続いています（図３）。

※質問・回答は簡略化して掲載しています。
※回答比率は小数点第２位を四捨五入していること、及び複数回答のため、数値の合計が 100 にならない場合があります。

各総合支所の調査報告書を麻布地区総合支所協働推進課で配布しています。また、区政資料室（区役所３階）・区のホームページでもご覧になれます。

お問い合わせ／麻布地区総合支所協働推進課地区政策係
電話／03-5114-8812

読者の皆さん、ご意見ください。

本紙記事の感想や取り上げてもらいたい情報など、何なりとお寄せください。より魅力的な紙面にするための参考にさせていただきます。

ご意見をお寄せいただいた方に麻布オリジナルグッズ「旧町名バンダナ」プレゼント！

「ザ・AZABU」では読者の皆様からのご意見・ご感想を募集しています。

ご住所・氏名・年齢・職業をご記入の上、下記までご応募ください。
●電話で.....03-5114-8812（月〜金／午前 8:30 〜午後 5:00）　●ファックスで.....03-3583-3782
●郵送で.....〒106-8515 港区六本木 5-16-45 港区麻布地区総合支所「ザ・AZABU」編集室宛

港区麻布地区総合支所だより

総合支所からのお知らせ

平成23年度港区民交通傷害保険加入の申し込みは今月までです

港区民交通傷害保険は、少額の保険料で加入でき、交通事故でけがをされたときに、入院や通院治療日数と通院治療期間に応じて、保険金をお支払いする保険制度です。また、港区民交通傷害保険の加入者に限り、「自転車賠償責任プラン」にも加入できます。自転車を運転中に相手にケガをさせてしまった場合等が対象となります。

申し込みの期限が近づいています。期限を過ぎたあとの加入はできませんので、希望する人は早めにお申し込みください。

金融機関での申し込み
平成23年3月25日（金）まで

各総合支所での申し込み
平成23年3月31日（木）まで

※パンフレット・申込書は、各総合支所協働推進課や金融機関にあります。

お問い合わせ／
麻布地区総合支所協働推進課地区政策係
電話／03-5114-8812

麻布消防署からのお知らせ

平成23年4月1日から「違反対象物の公表制度」がスタートします

建物の立入検査によって把握した消防関係法令違反の情報を提供し、建物の利用について判断できるようにするための公表制度です。

東京消防庁管内の建物に、消防用設備などの重大な違反が認められ、違反内容を関係者に通知してから一定期間経過後においても同一の違反が認められる場合は、「建物名称、所在及び違反の内容」を東京消防庁のホームページおよび管轄消防署等の窓口で公表します。

詳しくは東京消防庁ホームページをご覧ください。

東京消防庁ホームページ
http://www.tfd.metro.tokyo.jp

お問い合わせ／麻布消防署予防課
電話／03-3470-0119

都税事務所からのお知らせ

自動車の登録変更はお済みですか？

自動車税は、毎年4月1日現在、車検証に記載されている所有者（割賦販売の場合は使用者）の方に課税されます。

自動車を譲渡したり、廃車した場合、転居等で住所を変更した場合は、登録変更の手続きが必要です。お早めに、管轄の運輸支局または自動車検査登録事務所で手続きを行ってください。

◆自動車を譲渡したとき

平成23年3月31日（木）までに登録名義人の変更手続きを行ってください。変更手続きを行わないと、手放したはずの車に自動車税が課税され、トラブルの原因となります。

◆廃車等で自動車を使わなくなったとき

速やかに抹消登録を行ってください。抹消登録を行わないと、廃車したはずの車に自動車税が課税され、トラブルの原因となります。

◆転居等で住所を変更したとき

住民票の転居手続きとは別に、車検証の住所変更登録手続きが必要です。転居後の住所を管轄する運輸支局または自動車検査登録事務所で、変更登録手続きを行ってください。

＜ご注意＞

●車検証の住所変更登録手続きを行わないと、納税通知書が届かない等のトラブルの原因となります。やむを得ず手続きが遅れる場合は、下記問い合わせ先に連絡、または電子申請を利用して、納税通知書の送付先住所を変更してください。

詳しくは、主税局ホームページをご覧いただくか、下記へお問い合わせください。

主税局ホームページ
http://www.tax.metro.tokyo.jp/

お問い合わせ／
都税総合事務センター自動車税課
電話／0570-064-171
（IP電話・PHSをご利用の場合／03-5985-7811）

麻布警察署からのお知らせ

犯罪被害者ホットライン

もう一度　あなたの笑顔を　見たいから
～相談してみませんか～

電話　03-3597-7830
午前8時30分から午後5時15分まで
（土・日曜、祝日、年末年始を除く）
FAX　03-3592-6840

お問い合わせ／麻布警察署
電話／03-3479-0110

麻布地域情報紙「ザ・AZABU」第16号の記事に誤りがありました

麻布地域情報紙「ザ・AZABU」第16号の記事に誤りがありました

6ページ「麻布の軌跡」の本文中、きみちゃん像について、“七つ目はかよさん夫妻が晩年過ごした北海道小樽市の運河公園”とありますが、正しくは五つ目でした。青森県鰺ヶ沢町の像が七つ目になります。お詫びして訂正します。

麻布の区民参画……連載⑤ 語り合い、ともに麻布のまちを住みよくしていきませんか

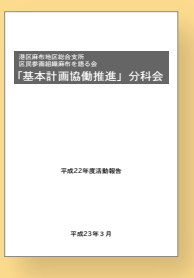
区民の皆さんとの「参画」と「協働」の取組みについて前号に引き続きご紹介します。

■麻布を語る会「地域情報の発信」分科会
【活動内容】本紙「ザ・AZABU」の編集・企画
今は何をやっているの？
外国人の編集委員の参加に向け、募集をしています。

■麻布を語る会「麻布未来写真館」分科会
【活動内容】将来に残し、伝えていくべき今の麻布の写真撮影や古写真の収集
今は何をやっているの？
平成23年1月には親子を対象にしたワークショップを、2・3月には、区役所・支所を会場にしたパネル展を開催しました。
4月には、東京ミッドタウンのフジフイルムスクエアでのパネル展を予定しています。

親子ワークショップの様子

■麻布を語る会「基本計画協働推進」分科会
【活動内容】地区の将来像「生活者優先の、安全で安心して快適に住み続けられる国際・文化都市」の実現を目指す「麻布地区版計画」の内容についての検証等
今は何をやっているの？
地区版計画の見直しに向け、1年間にわたり、地区版計画の体系に沿った検討を進めてきました。現状や課題認識、解決のための検討を行い、22年度は活動内容を中間まとめとしてまとめました。この活動成果をもとに、23年度は計画見直しに向けて、具体的な提言書の検討を行っていく予定です。
※各分科会とも随時メンバーを募集しています。内容については、お気軽に下記までお尋ねください。



平成22年度活動報告
※支所で閲覧できます

お問い合わせ／麻布地区総合支所協働推進課地区政策係　電話／03-5114-8812

ザ・AZABU

●配布設置場所ご案内
六本木1丁目、六本木、広尾、麻布十番の各地下鉄の駅、ちいばす車内、みなと図書館、麻布図書サービスセンター、麻布福祉会館、西麻布福祉会館、飯倉福祉会館、本村福祉会館、大平台みなと荘、麻布区民センター、麻布地区総合支所等

●本紙掲載の記事・写真・イラストの無断転載を禁じます。

Chief　尾崎恭彦
Sub Chief　石山恒子
Staff　浅川一枝　鈴木敏江　湊　早苗
伊東みゆき　高柳由紀子　森　明
大澤佳枝　田中亜紀　森角香奈子
大村公美子　西野さつき　山下良蔵
加藤智恵　福本綾子
倉石哲良　満木葉子
Junior Staff　石山　茜　大村　響　鈴木大智　本橋能里子
大竹朱音　櫻本さやか　鈴木美砂

港区は、みどりの保全とごみの減量に努めています。

編集後記

読者の皆様と共に創る地域情報紙をモットーに「ザ・AZABU」が創刊されて、平成23年度で6年目に入ります。皆様に取材、ご意見などにご協力を頂き厚く御礼申し上げます。これからも、新しい企画、記事などがございましたら、ご一報頂き、編集会議で諮り、区民参画の地域情報紙をより一層充実し、ザ・AZABUをさらに楽しくしてまいりたいと、編集部員一同思っております。よろしくお願いいたします。

（森　明）

「みなとコール」は暮らしの疑問にまとめてお答えします！

区役所のサービスや施設案内、催し情報など、お気軽にお問い合わせください。
年中無休／午前7:00～午後11:00　※英語での対応もいたします。

電話／03-5472-3710　FAX／03-5777-8752
Eメール／info@minato.call-center.jp

“Minato Call” information service
Minato call is a new city information service, available in English every day from 7 a.m.－11 p.m.
Minato Call: Tel: 03-5472-3710; Fax: 03-5777-8752; , E-mail: info@minato.call-center.jp